

スマートフォンの活用法高校生熟議 in 大分・札幌・奈良・大阪・東京

内閣府、文部科学省、総務省で高校生がリアルにプレゼンテーション—

羽衣学園高等学校 米田 謙三

高校生熟議は、2011年度に「高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」としてスタートし、昨年で3年目となりました。昨年は大阪・東京に加え、札幌、大分、奈良でも開催し、約3ヵ月間にわたる三回のリアル熟議と文部科学省「熟議カケアイ」を利用したネット熟議を開催しました。最後は、5か所の代表者10名の高校生による「高校生熟議サミット」を開催し、提言をとりまとめました。この提言は、3名の高校生が最終的に集約し「高校生の意見を中央に」と考え、内閣府、総務省、文部科学省でプレゼンテーションも実施しました。

1. はじめに

高校生熟議の目的には二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、「熟議」を通して、初対面の人と話し合うという経験をし、段階的に「考え、まとめる、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。もう一つの目的は、社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安全に、安心して使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のよりよいインターネット利用環境の構築の一助とすることです。昨年度は、急速に普及しているスマートフォンについて、高校生がその問題点と向き合い方について熟議を実施しました。また、高校生熟議では、通信事業者やサイトの運営事業者、情報モラルに携わる団体などと連携したキャリア教育としての側面も持ち合わせ、さらにその連携が強まりました。

2. リアル熟議 日程

全国5か所で各2回のセッション実施後

- ・高校生 ICT Conference 2013 サミット
(各地域の代表者による熟議)

2013年11月3日(日) 13:30-17:00

- ・最終報告会(サミットでの取りまとめを提言として内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」、総務省、文部科学省、経済産業省に報告) 2013年12月18日(水) 13:30-17:30

高校生熟議の具体的な様子について、大阪での熟議を中心に紹介します。

2.1 第一回大阪 リアル熟議

第一部「事業者による講演」企業さんがあらかじめ自分達でテーマと役割を決めて短い時間でそれぞれ重要な内容をプレゼンしてくださいました。

- 1 「表現の場としてのインターネット/未来のために今知っておきたいこと」株式会社はてな
- 2 「スマホにひそむ危険」デジタルアーツ株
- 3 「ケータイ/スマホとどう向き合いますか?～スマートな利用方法とは～」株 DeNA

各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。

参加校 学校紹介 および グループ分け

第二部：熟議「何が知りたい?!情報のモラルとリテラシー」 グループに分かれ研究会の教員がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。高校生たちは付箋紙に現在使っているスマホやネットの使い方からこれからのこと、また一緒に入って下さった事業者の方にもいろいろと質問をしながら、メモや付箋紙を活用し、意見を出し合っています。歓声上がるほど活発な意見交換が出されました。自分たちのネットへの依存の高さや現代社会の問題点も出しているグループもありました。付箋紙を模造紙に貼り付けていく中で意見を整理分類して、各グループでまとめて行きました。

2.2 第二回大阪 リアル熟議

第一部：「講演」「ケータイ・スマホの変遷から見るネットセキュリティとモバイルの未来」KDDI株式会社 渉外・広報本部 これまでのケータイ・スマホの歴史から、これからのモバイルがどのように変わっていくかをグーグルメガネの例などをあげてお話しいただきました。

第二部：熟議「高校生だからできる「情報モラル・情報リテラシー教育」」 グループに分かれ本研究会の教員がファシリテーターとなって、高校生熟議を開始しました。今回のテーマは5W1Hということで、高校生たちが、大人、小中学生、高校生に対して、情報モラル・情報リテラシー教育を

いつ、どこで、どのように実施するかを、一緒に入って下さった事業者の方や大学の先生の皆さんといろいろと質問をしながら、メモや付箋紙を活用し、意見を出し合っていました。歓声が上がるほど活発な意見交換が出されました。途中からは完全に高校生たちだけで議論、まとめていく状態になっているグループもありました。今回は、最後にプレゼンテーションソフトを使って発表するため各班短い時間の中でしたが簡潔にまとめて行きました。また書記はOB、OGが担当しました。事前からフォームやまとめ方を打ち合わせして滞りなくまとめることができました。最後は発表の方法やリハーサルをするグループもあり、素晴らしい熟議となりました。

3. 高校生熟議サミット・提言発表

3.1 「これからの安全のために」(小中学生に向けて)

モラル：ネットを使う前から、他人のことを考えさせることを徹底する。ネットは、機械が相手ではなく、実在の人間が相手だから、ネット上でそうした他人の存在をキチンと認識させる。

家庭のルール：ケータイ紛失やそこに格納されているデータを守るためにも、ケータイを置く場所などをキチンと決めて、自分の所持するものの管理を徹底する。ケータイは、親の契約と支払いで使えるものだから、親にも責任がある。

フィルタリング：フィルタリングがあったから、なかったからこんなことが防げた、起きたなど、様々な体験談を先輩から教わる機会を設ける。

3.2 「親に分かってほしいこと」(家族に向けて)

技術：スマホの使い方を親も覚えて欲しい。子どもが使っているものを親も使って欲しい。親子でお互いが知識を深めることで、共有することが大切。親が理解せずに子どもに与えているのが現状。

家庭のルール：プライバシーは守って欲しい。子どもに合わせたケータイを持たせて欲しい。今は親も分からないので、使いながら覚えさせている。だからトラブルに遭っても質問できない。

・3.3 「現場をサポートしてほしい」(行政に…)

マニュアル：年齢が学年などのレベル、地域によって使い方も異なるので、トラブルも様々。それぞれに合ったマニュアルが必要。

教科「情報」という科目で習っているが、ホームルームや総合学習など、堅苦しくなく、身近な問題として学習できる授業をして欲しい。

小中学生：モラルやルールなど最低限必要なことを学ぶ

高校生：依存や犯罪などに備え、危機管理が常に行えるようにする

・3.4 「現場を知っているのは私達です」(同じ目線で話したら伝わりやすい)

リスク管理：ネット利用する上での危険性について知っているつもりだが、感じてはいない。自分は大丈夫と思わせないためにも、感じないと意味がない。ネットでのコミュニケーションは決して友だちの中だけのものではなく、閉鎖的というわけでもない。インターネットの大きさ、グローバルにつながっていることを知っておくべき。

友達：トラブルや困ったとき、わからないときに友達同士、横の関係でたすけあうことが大切。ネットのことでリアルな関係で助け合う。

ネット依存：友達同士でルールを決めて、お互いに注意し合う。やり取りが続いても長時間の利用になったら暗黙のうちにやめられるように。

情報リテラシー：日常の会話や雑談で話し合う。ニュースを見た翌日に、友達と話し合う習慣をつける。その中で自分とは違う意見があることを知ること大切。

4. 最後に 「輝かしい未来に向けて」

羽衣学園高等学校 3年 開発者と利用者は相互に協力して、現状を直視して、責任を持った行動をすべき。その場しのぎの対策ではなく、現状を認識して対策して欲しい。利用規約が長くて、スルーしてしまうのは、利用者の問題ではあるが、提供側ももっと工夫ができるのではないかな？

奈良県立奈良朱雀高等学校 3年 世代間で情報機器に関して格差がある。そうした格差がお互いに偏見を生んでしまっている。使ってみないとわからないこともある。親には是非ネットに関することを知って欲しい。

栃木県立宇都宮北高等学校 2年 技術が進んで、便利になって、返事がすぐに来るのが当たり前になってしまっている。他人には他人の都合がある。アプリに自分が飲み込まれず、自分なりの日常に上手に組み込んで使うべき。

"スマホに使われずに、スマホを使おう"

熟議は現場の課題解決と教育政策形成の新たな手法として期待される一方、熟議への参加は、関係者の参画意識の向上、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、学びあい、協働のための意識と行動の促進、参加者がともに作り上げる解決策など高い教育効果と民主的な態度の育成に貢献する。ゆえに、多くの教育現場で熟議が行われてほしいと願います。今年度も、5か所で開催を企画しています。是非ご参加ください。

参考 大阪私学教育情報化研究会サイト
モバイルコンテンツ監視機構EMAサイト